

## 第1回「通知表（票）事故調査委員会」 会議録

日時 平成23年11月21日（月）15:00～17:25

場所 小田原合同庁舎 2G 会議室

出席者	調査委員	前田 輝男	教育長
	〃	野中 陽一	横浜国立大学准教授
	〃	森戸 義久	小田原市立国府津小学校長（小学校部会進行）
	〃	野崎 裕司	小田原市立国府津中学校長（中学校部会進行）
	〃	平野 真弓	小田原市立新玉小学校教頭
	〃	小野 弘之	小田原市立城北中学校教頭
	〃	久保寺 仁	小田原市立富水小学校総括教諭（教務主任）
	〃	石井 朝方	小田原市立千代中学校総括教諭（教務主任）
	〃	佐々木 篤	小田原市立三の丸小学校教諭
	〃	瀬戸由里子	小田原市立酒匂小学校教諭
	〃	加藤 直樹	小田原市立城山中学校教諭
	〃	北村しのぶ	小田原市立酒匂中学校教諭
	教育委員	和田 重宏	教育委員長
	〃	山田 浩子	教育委員長職務代理者
	〃	萩原美由紀	教育委員
	事務局	三廻部洋子	教育部長
	〃	西村 泰和	教育指導課長
	〃	長澤 貴	教職員担当課長
	〃	栗畑寿一朗	指導・相談担当課長（全体進行）
	〃	菴原 晃	指導主事（司会）
	〃	鈴木 一彦	指導主事
	〃	大須賀 剛	指導主事（記録）
	〃	堀 賢一郎	指導主事（記録）

## ○資料確認

## 1 開会

## 2 あいさつ 前田 輝男 教育長

\* 芦子小学校から追加報告があり、総人数は 500 人になったことを報告。  
和田 重宏 教育委員長

## 3 自己紹介

## 4 調査委員会の目的と今後の日程（西村教育指導課長）

目的 今後、通知表の記載ミスを二度と起こさず「児童・生徒・保護者の手に渡す通知表を『正確で信頼あるもの』とするため」に事故調査委員会を設置する。

具体的活動として、事故の調査及びその分析、記載ミス防止のための改善策の提示（作成の流れの確立、チェック体制の充実、通知表作成ソフトの導入の検討）等を協議後、すべての教職員に伝達し事故再発防止に向けて取り組む。

日程 数回を予定（次回は11月29日・火）

5 正副委員長の選出

委員長…野中准教授      副委員長…前田教育長

6 記載ミスの分析と記載ミス発生原因について

【出欠席について】

- 〈小野委員〉 担任の集計ミスから起こることがあるので、担任の毎日の記入確認、週・月ごとの集計を正確に行うことが必要。  
通知表と出席簿の様式の整合性が必要。
- 〈石井委員〉 通知表と出席簿の様式の整合性が必要。  
統計を担当が週ごとに行い、副担がチェックをする。
- 〈平野委員〉 健康観察簿から出席簿への転記を行っていて、そのミスが多い。  
月末統計の時に出席簿へ転記することが多かったので、反省し毎日記載することにした。  
月末統計後、学年責任者、ブロックでなどのチェックをする体制作りをする。
- 〈小野委員〉 健康観察簿との照合も考えたが、朝の遅刻の連絡があり、その後欠席の場合、養護教諭は朝の情報「遅刻」で記録するので危険がある。
- 〈平野委員〉 小学校も同様のことが起きる。
- 〈森戸委員〉 健康観察簿から出席簿、出席簿からデータ入力と2回の作業でミスが多くなっている。便利なのか不便なのか疑問。健康観察簿は保健室なの管轄なので、出席簿は出席簿とその目的をしっかりと分けること。
- 〈佐々木委員〉 転記をするときのミスが多いので、転記をする機会を少なくするか、しないかだと思う。
- 〈野崎委員〉 毎日、生徒の登校などをしっかり把握すること。  
記入欄の間違え、上下の間違えがあった。  
小分けに確認してミスを防ぐ。
- [野中委員長] 小学校は健康観察簿から出席簿に転記をするのか。それは、デジタルからデジタルか、アナログからアナログか。
- 〈平野委員〉 月末統計はデジタル化した。毎日手書き。
- [野中委員長] 毎日手書きをしたものを月末統計の段階でデジタル化しているのか。この段階でPC入力している学校もあるのか。
- 〈久保寺委員〉 一日教室で子どもたちと一緒にいるので、毎日チェックしていないことに大きな問題がある。出席簿への意識を高める必要がある。
- 〈瀬戸委員〉 以前は、まっさらの出席簿に氏名のゴム印を押し、曜日が入っているところに日を入れていた。徐々にデジタル化する中で健康観察簿を重視するようになり、チェックが甘くなった。中途半端なアナログとデジタルの間でミスが生まれているのではないかと。
- [前田副委員長] 出席簿は手書きでした。出席簿は公簿です。出席簿とは何ぞやということを知りたい。地震や津波のとき何も書いていない出席簿を持っていくのか。これでは出席簿の意味を成していない。  
目的に応じて活用する必要がある。健康観察簿は出席簿に反映するが、通知表に反映していないでしょう。
- 〈佐々木委員〉 していない。
- 〈森戸委員〉 学校によって違う。  
健康観察簿と出席簿は別のもので、出席簿が優先されるということだと思う。
- [栗畑担当課長] 小・中の違いと意識改革の必要性が確認できた。

- [野中委員長] 中学校の場合は、紙ベースのものがひとつしかなくて、みんなが記入するというのでいいですね。
- 〈小野委員〉 朝から毎時間、担任・教科担当が細かくチェックしている。
- [栞畑担当課長] 作成手順の黒塗りの部分のとおりで、やることが多ければミスが多くなる。
- 〈小野委員〉 すべての項目や同じシートを使わないと意味がない。転出が一人いてその扱いが違くとミスが生まれる。
- [野中委員長] 現実に実現しているのか。
- 〈小野委員〉 同一のファイルを使用するよう推奨してはいるが、ウィンドウズのユーザーやマックのユーザーがいるので入り乱れている。
- [野中委員長] 個別にファイルを持っているということではなく、サーバーで一元管理しているということですね。
- 〈小野委員〉 一応一元化をしているが、使いやすく自分の PC に取り込んでいたというのが現状。公的 PC が一斉に導入されなかったので、個人の PC を持ち込んでいたというのが現実。一番大本になるところに元の表を入れていくが、自分が使いやすいようにして表や数式を変えて使っている人もいます。
- [野中委員長] データの一元化もファイルの一元化もできていないということですね。

#### 【特別活動・学校生活の様子について】

- [栞畑担当課長] 中学校は私物の PC を持ち込んでいたという問題があるわけです。ユーザーによつての違いが出ている。特別活動は小・中共通、小学校には学校生活の様子が1件ある。この記入ミスは突き詰めれば出席日数と同じで、入力ミスということになる。クラブ名や係名や委員会名をなぜ間違えてしまうかという、担任の意識や入力したが1行間違えているなど、入力間違いが多ければ発覚しやすいが、1行だと気づきにくい。
- 〈北村委員〉 中学校の場合は、特別活動欄には大会名だけでなく結果もあるので、部活動の顧問が入力したものが通知表まで反映するようになっている。記入内容を統一して、委員会や係名は担任が入力する。係名は学級によって独特なので担任が記入したものを副担が入力し、担任が再度チェックするようにしている。
- [栞畑担当課長] 今、「副担」という言葉が出てきたが小学校では聞き慣れないと思う。中学校には2クラスに1人ぐらい副担任がついている。
- 〈加藤先生〉 学校が変わるとシステムが違って、現任校では担任または学年で調べて入力するという方式。自分は担任で、データを副担任に入力してもらっている。どうしても、確認してくださいと言われても、入力してもらった安心感があり、確認が疎かになることがある。そこで、担任が入力する時間があるとよい。手書きと違い、入力は何度確認しても間違いが起りやすい。
- 〈小野委員〉 特別活動ということで、エクセルではプレビューでは入っていても実際には切れてしまうということがあるので、プリントアウトしたもので確認しないといけない。
- [栞畑担当課長] エクセルが悪いわけではない。
- [前田副委員長] 自分が担任をしていた頃は、クラブや委員会の担当者が個人票を作って、子どもの評価をそれぞれの担当者が記入して返すということをしていたが、今はないか。
- 〈瀬戸委員〉 個人票はあるが2学期制になって、その期間内には必要な時期に、担任の手元に届かない。そこで、係・委員会・クラブ活動について児童に記入させ、それを元に通知表を作成している。

- [前田副委員長] 個人票を整理し、束にして使った。便利だった。  
〈平野委員〉 個人票はあるが、必要な時期に 100%担任に返るわけではない。  
[前田副委員長] 中学校もそうか。  
〈野崎委員長〉 個人票というわけではなく、学期の終わりに反省として生徒に記入してもらい、資料としている。  
[前田副委員長] 今回ショックだったのは自分のクラスの子が自分の委員会に所属しているのに、それを記載ミスしたこと。

【評価・評定について】

- [栞畑担当課長] 小学校と中学校でシステム上の違いはあるが、記入の確認という部分をきちんと押さえていればと思う。関数がなぜ機能しなかったのか、直接入力したから関数が消えただろうということは想像できるが、また、小学校は資料にもあるように、低・中・高学年と様式が 3 種類あるので、データの入力はしたが、違うシートを立ち上げて打ち出してしまったので外国語活動の評価がなかったという例もある。また、中学校では低い素点が入力されて低い評定になったとか、半角で入力しなければならぬところを全角で入力したことで反映しなかったなどという、評価のミスではなくその処理の仕方が問題だったが、評価自体が違うのではないか、というご指摘もあった。
- [萩原教育委員] 評定のことについては、違うだろうとは保護者からは言えない。うちの子はこんなものだろうと真摯に受け止めるから。  
〈小野委員〉 本校では、成績のチェックは 9 段階あるが、この部分は 0 番と呼んでいる。なぜならこの部分のミスは教科担当しかわからないから。評価結果を担当が確認し、また、観点別評価と評定の整合性のチェックを何度も行って、担任が疑問に思った点は教科担任に確認したり、評定が大きく変わった者は説明責任という点からも教科担当から担任にメモや口頭で説明することになっている。その後のデータの貼り付けをした後は、学年部長や管理職で何度もチェックをしている。一番怖いのは 0 番のところのミス。  
〈野崎委員〉 やはり、信頼できる評価をするという組織を作っていく必要がある。また、教科コメントをもとに面談をしている。関数が反映しなかったことでのミスは、入力してもそこ以外にいかないというところをもう一度確認し統一する必要がある。教科によって配分も違うので、半角でも全角でも自動認識する誰が使っても同じように使えるものの導入やマニュアルが必要。  
〈森戸委員〉 中学校の観点別評価の配分等は県教委から提示され、研究所が出したものでやっているのか。
- [栞畑担当課長] そのとおり。  
〈森戸委員〉 小学校は今のソフトになって観点別評価を入れると 3 年生以上は評定が出るようになっている。しかし、小学校は観点の重み付けの感覚に差がある。例えば ◎◎○○を◎にするか○にするかや、観点別の重み付けや条件は、学校で違うことがある。作られたソフトはある一定の基準でつくってあるが学校で手直ししている。一律にした方がよいが、評価感が違うので学校できちんと話し合っ決めてくださいということになり、学校でしっかりしていればよいということになる。  
〈久保寺委員〉 H22 年度からソフトが入り、原則として入っている評価でよいと思っているが、専科の家庭科や図工で技能に重み付けをしているケースもあるのでカッティングポイントの設定が難しい。また、全員が PC に堪能ではない。ソフトはよくできている。評価は担任しかわからない。担任が持っている評価基準を学年・

学校でも検討をしっかりとすること必要。また、PCの扱い方の研修が必要で教師も人間なので時間的なゆとりがないと改善は難しい。

〈石井委員〉 本校で使用しているソフトの入力時のミスは転任者が多い。口頭とプリントでレクチャーはしているがトレーニングの時間が必要。学校によってソフトが違っていると、異動のたびにトレーニングをする必要がある。ソフトが統一されればレクチャーする対象がもっと絞られる。

〈北村委員〉 担任は面接をする際に、ただ「成績が上がりました、下がりました」ではなく必ず具体的なことを説明するようにする。疑問が生じた場合は教科担当に説明をしてもらうことを徹底する必要がある。

#### 【氏名・所見について】

[栞畑担当課長] 中学校は学校によってソフトが違うことが問題で、転任するとベテランが新採用と同じになってしまう。小学校は、同じソフトを使っているので転任しても新たなことを覚える必要がないというメリットがある。

〈森戸委員〉 ミスにも二つあって、見出しにある氏名の部分と文章中の氏名である。文章中は変換ミスがあるが、見出しの部分は大本のデータベースから反映させているので根っこが確認されているのでミスは少ないと思う。

[栞畑担当課長] 種類がいくつかある字で申請時に違っていたというケースも過去にはあった。

[前田副委員長] 卒業証書は戸籍の字と照合するが、入学時に保護者に確認をしていないのか。

〈久保寺委員〉 している。学事からもらった名簿で氏名印を作るので氏名印を使っている文にはミスはない。でも、PCだと辞書の第2水準に載っていない文字もあるので、その場合は手書き対応をせざるを得ない。時間削減でPCを導入しているので確認を繰り返してミスを防ぐしかない。

[前田副委員長] 中学校もそうか。

〈小野委員〉 最近は市教委に依頼するとCSVという読み取り用のファイルが送られてくるので、それを使って確認をしているが、外字は黒点になってしまう。外字が入っているPCで作業をすれば問題はないが・・・。

〈加藤委員〉 観点がずれるかもしれないが、保護者の方が今の通知表をもらってどのように感じているか、全部活字で人間味が感じられるかという疑問がある。

[栞畑担当課長] 温かみのあるのは手書き。年賀状と同じ。

[萩原教育委員] そのとおりですね。所見が途中で切れているという例もありましたが、この通知表も切れていますね。子どものことを考えて通知表をしっかりと見直していただければと思う。

[栞畑担当課長] 究極は手渡す通知表をどれだけ最終チェックができたか、ということになる。小学校・中学校に分かれ、市販ソフトの導入の是非について、今使っているソフトの課題など素朴なやり取りをしてほしい。小学校では今話した部分も話し合っ

てほしい。

〈小野委員〉 小学校の共通ソフトは教員が作ったものか。それとも業者か。

〈森戸委員〉 教員。

〈小野委員〉 所詮、PCが得意な教員が作ったものは、素人の作ったものですから。

[栞畑担当課長] でも、たいへん優秀なソフトですから。

〈【以後、部会ごとに検討】〉

【中学校】

- 〈野崎委員〉 中学校ではばらばらというか、何種類かのソフトを使っている。現状の課題を話し合ってどちらかの方向に。
- 〈小野委員〉 基本的にはプロが作っているものはよくできている。教員が作っているものはアマチュアが作っているものですから。従って、教員を集めて作るというのも難しいので市販のものの導入をしてほしい。
- 〈石井委員〉 通知表だけでなく、成績処理からのソフトの導入を希望する。できなければ成績一覧表から先のソフトを。
- 〈北村委員〉 統一したしっかりしたものが導入されれば、転勤先でも安心できる。
- 〈加藤委員〉 PCで作業するのであれば各校で共通するものが導入できれば。
- 〈野崎委員〉 ある程度統一したものの導入を希望するが、成績の処理から通知表に反映するものが小田原市で統一されれば、市販のものはある程度画一的なので、こちらの使い勝手、数字の重み付けなどが優先されれば、そしてそこから先が統一されればという思いもある。エクセルはプリントアウトで切れているという問題がある。
- 〈小野委員〉 成績をつける部分には先生方がすごく労力を使っている。しかし、転記の部分でのミスが多い。教科担任がつけた結果が一元化され通知表まで反映されれば、ミスは非常に少なくなるはず。
- 〈野崎委員〉 あと先ほど出た、欄を削るなどということをしていない。
- 〈小野委員〉 転入用の枠があって作業ができる。すべてのワークシートが統一されている必要がある。
- 〈野崎委員〉 細かくこういう場合はこうといいながら作っていかないと、プロは教育のプロではないので。
- [山田教育委員] プロが作っていくとどのぐらいの費用が。
- [栞畑担当課長] いろいろな種類があり、ピンきりだった。安いものを導入して使い勝手が悪ければ意味がない。
- [西村課長] 大体1校100万円ですか。
- 〈小野委員〉 オリジナルで作る場合は、月100万円単位は当たり前。
- [西村課長] でも、プロだから作成作業は早い。
- [山田教育委員] 中学校1校1校聞いて提示があれば。
- [栞畑担当課長] こういう部分が必要であるというものがしっかりとないと意味は薄くなる。そもそも、予算が取れるかということもある。でも、この話し合いから学校の実情を伝えないと。教育委員さんから投げかけを。
- [和田教育委員長] どこの市町村も評価は出しているのだから、すでに取り入れているところはあるのか。
- [栞畑担当課長] 豊田市（学校数は小田原の3倍）がある。ここは、通知表だけでなく校務支援ソフトが導入されている。文部科学省のICTの研究をしている。通知表のソフトだけなら本末転倒だねと言われている。
- 〈野崎委員〉 いろいろな事務に反映していかないと。中学校は調査書もあるので。
- [栞畑担当課長] 労力を使ってもミスにつながっているなら大本を考えないと。
- [山田教育委員] 中学校は高校入試もあるから。
- 〈野崎委員〉 調査書の場合は全部の開示に耐えられるように、部分部分プリントして生徒、保護者に確認してもらっている。
- 〈小野委員〉 学習成績通知表と学校生活通知表に分け、学校生活通知表は事前に生徒、保護者に渡して確認するという考えもあった。連絡でもよい。
- [栞畑担当課長] そもそも、通知表は法的に強制されるものではないけれど、そこは理解されていな

いけれどそこは理解されていない。通知表を出さないで面接で伝えるという手もあるが、保護者は受け入れない。

〈野崎委員〉 保護者はやはり見たい。そのあたりの形式自体を考えていかないとソフトだけでは。子どもと向き合う時間を確保という考えから、中学校の場合は部活動を見終わってから作業をしている。また、作業が集中してしまうということもある。調査書を作りながら12月の仮評定を出す。12月にも面談をするから。

〈石井委員〉 中学校の教員の90%が3学期制に戻したいと思っている。

[柴畑担当課長] 感覚的にはそう思えるかもしれないが、検討委員会のアンケート結果からそれはない。

〈小野委員〉 2学期制で4回なら、3学期制なら3回になる。前期の途中に夏休みがあるので成績を見せてがんばろうは必要。

[和田教育委員長] 聞いていると過渡期のような気がする。ソフトが未熟であるとか、ちゃんと整備されていない状況で進んでしまっている。忙しさを少しでも楽にという意味で導入したらこういうことが起きている。こういう状況は他市でも同じではないか。他へも反映できるようなソフトを導入しないと。

〈小野委員〉 これだけ痛い目を見たのだから、きちんと整備しないといけない。

[山田教育委員] 校長の指導が全職員に伝わっているのか、浸透しているのか不安なときもある。

〈野崎委員〉 徹底することを繰り返し指導しているが、やっていかなければならない。

〈小野委員〉 転出入の関係でズレが出てしまったのだが、保護者からは成績も違うのではないかと思われたが、徹底的に調べたので「成績は大丈夫です」と言えた。

〈野崎委員〉 統一して一回熟知していればどこでも使えるものが導入できれば。通知表の形式も将来的に同じものを使うのなら小田原市でも統一しないといけない。テストの入力から通知表まで反映していくものがあれば。後はプリントアウトして確認すること。

〈小野委員〉 転記してミスが見つかることもある。

〈野崎委員〉 PC上はだめ。

[柴畑担当課長] 例えば、直すたびに新しいものを打ち出して、どこが間違えていたかわからなくなるというケースもある。

〈小野委員〉 こんなケースとして、付箋をつけて指摘して直すと付箋をとってしまうというのがある。

〈野崎委員〉 直したものと間違っものをセットで引き継がないと。

[西村課長] 一枚を打ち出して最後まで引き継ぐ。

[前田副委員長] わたしが学校にいるときは、打ち出すのは最初と最後の一枚だけ。

〈野崎委員〉 そういう確認のノウハウをしっかりと確立しないと。

[西村課長] 横浜は来年度から導入、真鶴は導入しているという。

〈石井委員〉 中学校は一同でチェックするという作業がポイントになる。実際に午後に生徒を返してやったことでミスも見つけられた。

#### 【小学校】

〈森戸委員〉 市販ソフトについて、何か皆さんから情報はあるか。

[鈴木指導主事] 今、使っているような入力をしてとばすようなソフトもある。しかし、コンピュータを使っている他市や他県では、校務支援ソフトといって、データ管理から通知表作成まで全てできるものが入っている。

〈森戸委員〉 インターネットでダウンロードできるようなフリーソフト的なものであるが、今使っているものの方がよい。

〈佐々木委員〉	今回の資料でいうと 80%が転記ミス。何のソフトを使っても人間というか、意識の持ち方。欠席で 0 を 1 にしてしまったようなミスは市販ソフトでもはじけない。転記のミスをはじけないのであれば、校務支援ソフトであろうが変わらない。
〈森戸委員〉	今回の件については、技能的な問題であって、システムの問題ではないことは明らかだから、結局、市販でも同じことは起こりうる。
〔野中委員長〕	システムの問題としては、転記の回数は減らせばいい。1 回データを入れて、そこが確実にチェックできれば、そこから派生する関連のデータや通知表のデータはまず間違えない。そういうシステムがもし市販のものであるのであればいい。例えば、出席簿に関しては確実に今のシステムでできる。健康観察簿からデータを 1 回入力すれば通知表にまで反映することができる。もちろんこれはエクセルでもできる。だからシステムの問題ではないと言い切るのはいさ言過ぎ。システムを使うメリットはいわゆる効率化が進むということ。データが使い回せるということと考えると、転記という作業は、同じものをもう一度行うということだから、手間が省けたとはいえないと考えれば、システムの導入ということは十分に考えられるし、あるいはそういう方向でのシステムの改善が必要であると思われる。
〈森戸委員〉	無駄だなというのは、さっき出たように転記。 今のシステムの改善点を考えてみたいが、例えば、6 年が使うときに低学年や中学年にはアクセスできないといったようなことはいくらでも考えられるのだが、そういう方向でいくのか、新しいシステムの検討というようなことをやるのか。
〔野中委員長〕	今の意見は人為的にミスを減らすことができるようなシステムという考え方。記入漏れがあったときに自動的にチェックする機能があるだろうかなどというの、効率化とともに大事な観点。もうひとつは共有化。これは今のシステムではできない。もともとのデータベースを変えると、先生方個々のデータまで自動的に更新・反映されるようなもの。ぱっと思いつきでも、このようにシステムには 3 つの要素があるのだけれども、これと照らしたときに、現行のシステムはどうか。あるいは市販のシステムはどうかと見ていく必要がある。
〈森戸委員〉	確かに、名前や住所がデータベースのようにはなっているけれど、これが現在の通知表システムに連動されていることはない。広い意味でトータルでは、全て連動されるような大きなシステムが考えられるのだが、ここで話し合うにはまたちょっと違ってくる。ものすごいお金もかかる。教育委員会が全部提案して導入してくれるならまた話はちがうが。通知表だけを改善していくのであれば、今のシステムを改善していく方がいいと思う。
〈久保寺委員〉	教員同士の温度差がある。ソフトだけの問題ではない。研修を重ねる必要もある。じっくりと聞いたり試したりしながら作業するような時間もないと考えると市販のソフトも検討する必要はあるか。
〈瀬戸委員〉	子ども達と向き合う時間を少しでも取るためのソフトなのに、結果的にソフトの導入の効果も見えずに悲しい。
〈久保寺委員〉	市販のソフトの方が今回のような単純なミスは少ないと思うが、どうか。
〔鈴木指導主事〕	市販ソフトは関数をいじることができない。欠席日数などでも入力制限ができるかと聞いている。
〈瀬戸委員〉	今回の通知表のミスが、市販のソフトを導入することで解決できていたのかどうか比較できないと分からない。アナログとデジタルが混在するような今の環境も影響してそう。
〈森戸委員〉	全校のシステムが全部同じだといいいは思う。
〔野中委員長〕	市販のソフトでできるかどうかというのは、次のステップで、今やるべきことは、

従来型のものから、このエクセルのシートが導入されたことで、本当に効率化が進んだのか、よりミスが減るような方向で改善されたのかということ吟味すべき。それを吟味した上で、従来型のものがよいとなったら、どこをどう改善すればよいのか。どういう機能が必要で、どこまでは現状のシステムではできるのかを吟味する必要がある。中途半端なものであれば、先生方のスキルも違うのでやめた方がよい。その際、全部はシステムでは解決しない。やり方をシステムにある程度あわせていくことも必要。割り切ることも必要。これを考えるのは次のステップ。

〈佐々木委員〉 ここでいう従来とは、いわゆる数年前、手書きだったり、いわゆる所見を貼り付けたり、学校ごとに違う対応をしていた頃の何をいうのか。

〔野中委員長〕 そう。それが一律になって同じようにやれるようになったのはひとつのメリット。

〈佐々木委員〉 自分は逆に、皆さんにどう今のソフトをどうしていったらよいのか聞きたい。

〈瀬戸委員〉 少しでも子ども達と向き合う時間が欲しいと思っている。市内の先生方が、今のシステムになったことでどう思っているのか私も知りたい。

〈久保寺委員〉 通知表のことを考えるようなことは難しい。余裕がない。チェックが増えてきて、チェックの時間がかえって効率的でなくなっている。このシステムが入ることで効率化というか、労力はどうなったのかを見極めていく必要がある。

〈佐々木委員〉 チェックすることは減っていると思うが。どこでミスしやすいのかを把握し、どこは使う先生方がチェックする必要がないのかも把握していく必要がある。

〈森戸委員〉 方向性は確認されたかと思う。校長会ではこのシステムを変える話が出ていない。よりよく改善していければとは思っているが。

〈平野委員〉 よりシンプルなものになるような改善を希望したい。例えば当該学年のファイル以外は開かないようなになるとか。先生達が勤務時間内できるような時間の確保も考えていかなければならないと思っている。

〈森戸委員〉 いずれにしても中途半端にならないようなものにしていきたい。どちらの方向に行くのかというあたりも含め、少し周りの先生などに聞いてもらえるといいか。

#### 【各部会報告とまとめ】

〔大須賀指導主事〕 小学校部会では、是か非かの答えは出ていない。今入っているエクセルのシステムが導入されたことで数年前(従来)より効率的になったのか、ミスは減ったのかを検証する必要がある。また、その時、余裕を持って十分な準備やトレーニングができていないか。教員の個人差も考えていかなければならない。これらを考えることが改善点につながると思う。基本的には今のシステムを使っていくことを踏まえた話だった。

〔堀指導主事〕 中学校部会は、導入「是」ということで進んだ。金額や他市の状況や、通知表を成績・生活に分け生活は事前に確認をするなど様式について、また、いつそのこと通知表をなくして面接で伝えていくという意見も出たが、保護者は必要と考えるだろうということだった。徹底することは一層徹底する、そして、午後生徒を帰して一斉に確認作業を行うなどの方法があげられた。確認作業では一枚を引継ぎ、確認・修正して最後にプリントアウトする、従って2枚だけプリントアウトという方法も示された。最後に、市販ソフトの導入時では学校の使い勝手のよいものの導入が必要である。

〔野中委員長〕 今日は個人的な見解を述べさせていただく。最初に校務の情報化は文部科学省が学校教育の情報化の手引きにも書いてあるように、目的は「効率的な校務処理とその結果生み出される教育活動の質の改善」です。もちろん、効率というのは、時間が生まれて子ども達の指導が行き届くということもあるし、業務の効率はこ

れによって多忙化の解消もある。今日出てこなかったが、教科情報を分析したり共有することで質を高めましょうという意味がある。残念ながら今回は、データを生かす前の段階でのミスがあったことが問題。従来、ばらばらに持っていた情報を共有することで教育に生かすということが必要。今回の目的である正確で信頼あるものにするときに、情報をデジタル化するということは、そのメリットが盛んに言われているので避けて通れない。従来アナログで行っていたときにミスが指摘されなかったのに今回ミスが指摘されたということは、システムを導入したことが起因と言わざるを得ない。どのレベルのもので何をもたらしただか分析すること、一つには本当に効率化ができ、本当に教員の時間的余裕が生まれたか。本当に、効率化するためにはデータの入力を分散させるしかない。日頃から、データを蓄積してきたものを通知表として短期間に出来上がって、確認して、その後の指導を考える。だから、日常的に入力する必要がある。特に、お互いにその子のデータを共有することで、特に中学校だろうが指導にあたるということをやっていく必要がある。そう考えると、今までの話にあるシステムが市内で統一されていないことは致命的な話で、システムが違うがために研修をするなんてさらに上乗せです。それと、学校におけるデータの一元化。データの一元化とシステムの一元化をしないと校務の情報化は意味がないものになる。小学校はグループで開発したというが、これをしたいあれをしたいとなったときに個人やグループの責任でできるのかということとなると、市販ソフトの導入は答えが決まってくる。ただ、ソフトを選定していくときに考えなければいけないことがある。もう一つ、保護者サイドから見て、成績に関しては言いにくい。不信感の払拭としては説明責任のための説明をしっかりとしないといけない。「言いにくいかもしれないがぜひ学校へ聞きに来てください」ということを文書で伝え、中学校は「教科担当が直接答えます」など真摯にしていかないといけない。そして、評価を信頼できる規準で行っているかということを確認する必要がある。同じ人がチェックしてもミスは見つからない。他の人がチェックすること、管理職は何をするのか、それがどのデータがあればいいのか、前回との比較資料なのか、それは、アナログのものは難しいので、システムに入ったもののチェックということになる。

[前田副委員長]

1月18日に横浜で119校1400件のミスが新聞報道にあったが、原因としてPC操作の慎重さに欠けている、組織的なチェック体制が不十分であった。気づいたことを3点、一点目、出席簿と健康観察簿の本来の意味を再考する。二点目、トレーニングをするなどゆとりある時間の確保の工夫をする。三点目、心情的なものですが、最大40名の子ども・保護者の気持ちになって最終版をチェックする。